

(別紙様式3)

令和3年3月31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 石川県金沢市角間町ヌ7番地
管理機関名 国立大学法人金沢大学
代表者名 学長 山崎 光悦

令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月23日(契約締結日)～令和3年3月31日

2 事業拠点校名

学校名 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

学校長名 中澤 宏一

3 構想名 持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成

4 構想の概要

本構想は、北陸圏域の高等学校、海外の高等学校、関連する機関により「北陸ALネットワーク」を形成し、組織的・継続的に“持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダー”を育成するものである。

拠点校において実施してきたスーパーグローバルハイスクール事業(以下:SGH)の課題探究型課程をベースに、国内外の連携校等における取組や各校が立地する地域の異なる経済・文化・歴史等の社会的背景も含めた多様な視点、協働機関による専門的視点からの指導等を取り入れることにより、教育カリキュラムを深化させる。さらに、高校生の段階から金沢大学が有する海外ネットワーク等も活用した国際性と、アドバンスト・プレイスメント(以下:AP)による高い知識を身に付けさせる取組を加え、社会が抱える複雑な課題に立ち向かう“新たなグローバル・リーダー”育成モデルを確立し、広く全国へと発信する。

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目		実施期間（令和2年4月23日 ～ 令和3年3月31日）												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ネットワークの管理運営	運営会議等の設置・ネットワーク運営			← 各連携校との協議 →						○ 会議実施	← 各連携校との協議 →		○ 会議実施	
	運営指導委員会の設置・評価	←						委員の選出・委任					○ 会議実施	
	国内外のネットワーク強化	←				連携校以外の高校との連携開拓								
		情報発信・研究成果の蓄積を視野に田中昭文堂印刷株式会社と連携												
アドバンスト・プレイズメント (AP) の実施	新たなAPの開発		← 数理データサイエンスをベースとした高大接続にかかるAPの開発 →									R3年度より「データサイエンス基礎」を開講		
	既存事業を活用したAPの実施	グローバル・サイエンス・キャンパス	← 第2ステージ（2年目） →		募集	○ 一次選抜	← 第1ステージ（1年目） →		○ 二次選抜	← 第2ステージ（2年目） →		○ 成果発表	← 第3ステージ（2年目・3年目） →	
		日本数学 A-lympiad	← 第3ステージ（3年目） →						← 募集 →		○ 開催	○ 結果発表		
		○ 最終報告												

(2) 実績の説明

2020年度の構想計画に係る取組の実績

(2) - ① ネットワークの管理運営

・運営会議等の設置・ネットワーク運営

本事業の実施にあたり、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での会議の開催や海外渡航等の移動に制限が生じていたが、令和元年度に構築した国内外とのネットワークを基盤とし、Zoom等のオンラインシステムを活用して管理機関、拠点校、連携校、各県教育委員会、海外機関等との迅速な情報共有を図った。さらに、新たな情報共有・情報発信の場として、オンライン上で動画やポスター等の掲載による成果発表、国内外の高校生とのディスカッションや情報発信を行うことを可能とするプラットフォームを構築するに至った。また、管理機関の長を議長とする「北陸 AL ネットワーク運営会議」を令和2年11月に開催し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた拠点校及び各連携校の実施計画等、事業全体の進捗状況について確認した。さらに、令和3年3月にも本運営会議を開催し、令和2年度を通じた事業全体に関する進捗管理や次年度の事業運営の在り方について確認した。（【実施体制の整備】 a,b,c , 【AL ネットワークの形成】 a,b,g）

・運営指導委員会の設置・評価

運営指導委員会では、前年度に引き続き、本事業における学びの在り方等について、報告書に基づき、専門的見地から検討し、指導・助言をいただいた。（【実施体制の整備】 d）

・国内外のネットワーク強化

令和元年度に構築した関西の WWL コンソーシアム構築支援事業拠点である関西学院大学との連携に加え、令和元年度に拠点校である金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立金沢二水高等学校、石川県立金沢西高等学校の4校で行った合同課題研究発表会に、令和2年度においては、新たに金沢高等学校、金沢学院高等学校、石川県立大聖寺高等学校、石川県立金沢錦丘高等学校、宮城県仙台二華高等学校、福井県立若狭高等学校、海外からシンガポール・ナショナル・ジュニアカレッジ (NJC) が加わるとともに、アドバイザーとして民間企業や、地方公共団体、教育機関等の専門家が参画し、規模を拡大して探究成果発表会を開催した。また、オンライン上に継続的にディスカッション・情報共有を行うプラットフォームを構築した。（【研究開発・実践 b】）

管理機関が「カリキュラム・アドバイザー」を2名配置し、カリキュラム・アドバイザーを中心に拠点校教員と協働し、令和元年度に連携体制を構築した NJC と、Slack を活用した共同のワークスペースを設置するとともに、Zoom等を活用して、協働プログラム開発に係る遠隔会議を複数回行い、連携を強化した。NJC とは、引き続き Zoom等を活用した意見交換を行うとともに、令和3年度は現地でのフィールドワークを行う予定である。また、NJC 主催のイベントへの参加

の提案を受ける等、更なる連携の強化が進んでいる。（【財政等支援】 a,b, 【ALネットワークの形成】 d）

（２）－② アドバンスドプレイスメント（AP）の実施

・新たな AP の開発

管理機関である金沢大学において、高大接続による大学教育の先取り履修として、大学生を対象とした「データサイエンス基礎」を高校生向けに開講するための具体的な授業内容等を検討し、令和３年度に高校生向けに開講することとしており、準備を進めている。（【研究開発・実践】 g,h）

・既存事業を活用した AP の実施

管理機関である金沢大学における既存事業を活用した AP として、「日本数学 A-lympiad」や「グローバルサイエンスキャンパス」（以下 GSC）を実施しており、令和２年度「日本数学 A-lympiad」では拠点校から４３名、連携校から３８名が参加し、全体では、１４県から６８チーム、２５９名が参加している。令和２年度は拠点校の参加チームが優秀な成績を収め、オランダで開催される「Math A-lympiad」に参加する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。「GSC」では、拠点校から７名、連携校から１８名が参加しているほか、北陸圏のみならず、神奈川県や兵庫県、長野県等の高校生も参加している。

これらの活動を通して、学生は自己の教養を高め、思考力と判断力を養成している。（【研究開発・実践】 h）

管理機関の支援

・人的支援

人的支援として、管理機関が大学であることの強みを活かし、拠点校、連携校への留学生の派遣や Zoom 等を活用したオンラインでの交流を行った。ポスター形式やワークショップ形式でのプレゼンテーションやディスカッションを英語で行うことにより、実践的な英語力の養成を図ることが可能となった。例えば、SGH 事業から継続して、管理機関から連携校である金沢泉丘高等学校へ留学生の派遣を行っており、令和２年度は Zoom 等を活用し英語によるディスカッションを行った。また、石川県立小松高等学校における交流会において留学生を派遣し、高校生から留学生へのインタビューやディスカッションをしながら、文化交流等の機会となった。

さらに、連携校である石川県立七尾高等学校へ都市計画や地域経営に造詣の深い教員を派遣し、探究活動の展開を推進した。（【財政等支援】 a,b）

・財政的支援

管理機関である金沢大学の自主財源等により、AP として日本数学 A-lympiad や GSC を実施した。また、本事業の永続的な実施に向け、昨年度に引き続き、拠点校において、グローバル・リーダー育成基金を運用している。（【財政等支援】 b,c）

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目		実施期間（令和2年4月23日 ～ 令和3年3月31日）											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
グローバルな社会課題カリキュラム開発	SDGsを題材とした教科指導 地域課題研究・グローバル課題研究の展開							地域課題研究					レポート提出
	新たな科目の開発・実施							グローバル課題研究					探究発表会 レポート提出
国内外の高校とのネットワークによる活動	連携校等とのSDGs共同研究							NJCとの協働研究や他校との連携					
海外研修/アジア高校生架け橋プロジェクトにおける海外高校生受入	海外研修			新型コロナウイルス感染症拡大のため中止：オンラインを活用した交流等を実施									
	架け橋プロジェクト受入											留学生受け入れ（中国より）	
高校生国際会議の開催	留学生とのグローバル・ディスカッション							グローバル・ディスカッションの実施（オンライン）					
	国際会議の開催							高校生国際会議開催準備					高校生国際会議開催

(2) 実績の説明

2020年度の構想計画に係る取組の実績

(2) - ① グローバルな社会課題研究のカリキュラム

・SDGsを題材とした教科指導 地域課題研究・グローバル課題研究の展開

管理機関に配置したカリキュラム・アドバイザーと拠点校教員が協働し、地域課題研究に係るプログラム等を実施するとともに、グローバル課題研究に係るプログラム等の開発を進めた。

地域課題研究では、昨年度に引き続き、「地域活性化プロジェクト」として①地域の課題を自分たちで発見し、②実社会で生きる方々を巻き込んで（協働）、③高校生らしい発想で解決策を提案・実践する課題解決学習に取組み、グローバル社会と繋がる地域社会について、主体的に認識を深めた。また、「地域活性化プロジェクト」においては、「平和町プロジェクト」として住民アンケートを実施し、その結果を分析し、街づくりのヒントとなる情報を発信する活動を行った。同様に「地域活性化プロジェクト」の1つとして堅町を対象とした「堅町 Art Spiral」において、「かなざわ未来芸術祭」のオンラインでの開催に向け、金沢21世紀美術館や堅町商店街との協力を得て、新型コロナウイルス感染症拡大の時代における芸術祭の在り方を探究する活動を展開している。さらに、コロナ禍におけるフィールドワークの充実を図ることを視野に、10月29日（木）～30日（金）に加賀現地学習を行い、フィールドワーク及び研究内容の中間報告会を行った。

グローバル課題研究では、大きなテーマとして「Sustainable City & Communities」を設定し、生徒一人一人が自ら研究テーマを決め、研究に取り組んだ。研究テーマごとに6つのゼミを形成し、ゼミごとに Slack を活用したワークスペースを作り探究活動を行った。テーマ決めにおいては、①「金沢から世界へ」、グローバルの意味を「共感」ととらえ、地域の声を聞いて内容を深めること、その結果「他の国ではどうだろう」と国を超えて考えること。②自分の強みを生かしたオリジナリティのあるテーマを設定すること。自分が深く研究してみたいこと、自分の人脈を活かす研究、自分の生き様が活きるような研究にすることについて指導を行った。8月と12月に Zoom 等を利用して留学生に向けた発表会を開催し、研究内容を留学生に向けて英語で発表するとともに、ディスカッションを行った。さらに、NJC との協働研究を行うゼミにおいては、Zoom を活用したテレカンファレンスを複数回行った。グローバル課題研究の研究成果は論文にまとめ

ることとしており、3月には県内外の高校生やNJCが参加する「探究成果発表会」を開催し、成果発表を行うとともに、学校の枠を超えて生徒同士が自らの探究や学びを語り合い、交流を行った。また、「探究成果発表会」には、社会人が助言者として参画し、専門的知見を含む多様な知見による学びを深めた。（【研究開発・実践】a,b,c,e,f）

・新たな科目の開発・実施

拠点校における新たな科目開発については、1年次から国際的な素養を育て、有効な海外交流に繋げるための新たな教科であり、専門研究を推し進める一方で押さえるべきスキルやコンピテンシー、マインドセットを教授し、教科の枠を超えて、各教員の強みを生かすことのできる授業として令和元年度に「国際教養 基礎」を導入・実践するに至っているが、令和2年度も引き続き、カリキュラム開発を行い、Zoom等を活用し、「帰納的論証」、「マインドセット」、「思考ツール」の習得を目的として授業を展開した。今後は、総合的な探究の時間との親和性がより高まるよう工夫し、実社会で求められているスキルを身につけるカリキュラムの開発を目指す。（【研究開発・実践】a,e,f）

(2) - ② 国内外の高校とのネットワークによる活動

・連携校等とのSDGs共同研究

カリキュラム・アドバイザーを中心に拠点校教員と協働し、SlackやZoom等を活用して、NJCと情報交換や意見交換を行い連携を強化するとともに、NJCと「新型コロナウイルスが増加する状況下で、コミュニティの需要・要求を支えるように、公衆衛生制度がどう進化すべきか？」等をテーマに協働研究を展開した。さらに、連携校以外の高校が参加するディスカッションの機会を設け国内外のネットワークの強化に取り組んだ。また、令和元年度に拠点校である附属高等学校、金沢泉丘高等学校、金沢二水高等学校、金沢西高等学校の4校で行った合同課題研究発表会に、令和2年度においては、新たに国内から6校、海外から1校が参加し、延べ390人の生徒による探究成果発表会を開催した。（【研究開発・実践】b）

(2) - ③ 海外研修/アジア高校生架け橋プロジェクト

・海外研修

令和2年度は、拠点校及び連携校において、各校が設定する課題研究に応じ、ディスカッション等で深めた知見を基に、高校生が適地においてフィールドワーク等を実施する海外研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外渡航を取りやめた。代替として、オンラインの活用等により次のような取組を行った。拠点校においてZoom等を活用し、海外の生徒や様々な分野の専門家等が参画する探究成果発表会等をオンラインで開催し、国や学校の枠を超えて生徒同士が自らの探究や学びを語り合い、さらに様々な分野の専門家からの指摘を得ることを通して、多様な文化や知見を学んだ。また、課題研究における留学生への発表会を実施し、英語によるディスカッションを通して交流を行った。さらに、オンライン上で国内外の高校生とのディスカッションや情報発信を行うことができるプラットフォーム（Webシステム）を構築した。（【研究開発・実践】d）

・架け橋プロジェクト受入

令和2年度は、アジア高校生架け橋プロジェクトにおいて、中華人民共和国からの留学生を1名受け入れ、拠点校においてともに学ばせることで、異なる地域、文化におけるそれぞれの差異に触れる機会を提供した。数学の授業では、本校生徒との学び合いで学習理解を深め、また、漢文の授業では中国での説話の解釈を紹介した。（【実施体制の整備】f,h, 【研究開発・実践】i）

(2) - ④ 高校生国際会議について

・留学生とのグローバル・ディスカッション

拠点校、連携校への留学生の派遣やZoom等を活用したオンラインでの留学生との交流を行った。ポスター形式やワークショップ形式でのプレゼンテーションやディスカッションを英語で行うことにより、実践的な英語力の養成を図ることが可能となった。例えば、SGH事業から継続して、管理機関から連携校である金沢泉丘高等学校へ留学生の派遣を行っており、令和2年度はZoom等を活用し英語によるディスカッションを行った。また、石川県立小松高等学校に留学生を

派遣し、高校生から留学生へのインタビューやディスカッションをしながら、文化交流等の機会となった。（【財政等支援】a,b）

- ・国際会議の開催

管理機関主催で、拠点校を中心に国内外の高校生や社会人が参加し、ディスカッション等を通して、行動変容を目指す目標設定の場としての国際会議を当初計画より前倒しし、令和2年度に開催した。国際会議はオンラインで開催し、国内からは各連携校だけではなく、長野県長野高等学校、長野県上田高等学校、福井県立敦賀高等学校が参加し、海外からは、エジプトやアメリカ等から生徒が参加した。さらに、助言者として民間企業や教育機関等の社会人が参画した。テーマとして「パンデミックの時代にどう生きるか」を掲げ、グローバルな社会課題について、生徒が社会人や海外の高校生と対話することを通じて、自身の行動や価値観を見直すとともに、行動変容に繋げるための学びを深めた。（【AL ネットワーク形成】e,f）

8 目標の進捗状況、成果、評価

- ・管理機関における進捗状況・成果

令和2年度においては、令和元年度に構築したネットワークを基盤に、取組をさらに深化させることを目指しており、管理機関にカリキュラム・アドバイザーを2名配置し、地域や海外との連携の強化を進め、教育カリキュラムの深化を進めた。ネットワークの形成に関し、新たに長野県や宮城県等の高等学校の探究成果発表会への参画により、北陸圏域を超えた地域ともネットワークの拡大・強化が進んでいる。さらに、関西のWWL拠点である関西学院大学とのWWL・SGH×探究甲子園との共催等、各地域にあるWWL拠点同士の連携体制も継続して構築されている。

また、高大接続にかかるAPについて、すでに記載のとおり、これまで管理機関で実施している事業を引き続き行っていくとともに、高大接続科目として、大学生を対象とした「データサイエンス基礎」を高校生向けに開講するための具体的な授業内容等を検討し、令和3年度に高校生向けに開講することとしており、高校生の先取り履修の環境整備が進んでいる。これらのことから、令和2年度事業実施計画書をベースに、遅滞なく進捗している。（8 目標の進捗状況、成果、評価 a~c）

- ・拠点校における進捗状況・成果

拠点校においては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、海外渡航の中止や休業期間の影響や行事等の開催方法の見直しを余儀なくされたが、管理機関に配置したカリキュラム・アドバイザーを主導的立場に立て、1年次から3年次に通貫したカリキュラム開発を目指し、特に令和2年度は2年次におけるカリキュラム開発を中心に行ってきた。

「グローバル課題研究」において（2）-①に記載したとおり具体的な活動に至っている。多様な視点、専門的視点からの指導等を取り入れることにより、教育カリキュラムを深化させるという観点も踏まえ、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下においても、NJC や管理機関との連携によるオンラインを活用した海外交流や、事業連携校、県内外の高校との連携、様々な分野の専門家の参画によるディスカッション等を通して、探究活動における学びを深めた。

さらに、高校生国際会議を当初計画より前倒しして開催するに至り、拠点校において当初の計画どおり進捗しているといえる。

- ・連携校における進捗状況・成果

連携校においても、拠点校と同様に新型コロナウイルス感染症拡大により、海外渡航の中止や休業期間の影響や行事等の開催方法の見直しを余儀なくされたが、オンラインを活用する等、様々な工夫を凝らし、教育カリキュラムの開発や深化が進んでいる。例えば金沢泉丘高等学校においては、オンラインを活用した留学生との交流や、大学院生からオンラインで研究指導を受ける機会を設けた。また、連携校以外に国内外の高校生が参加する探究成果発表会や高校生国際会議への参加を通して、北陸圏域を超えて学びを深めた。

- ・評価について

令和2年度のWWL事業の達成状況に対する評価は本報告書を用い、運営指導委員会の指導を

受けた。（【実施体制の整備】d）

9 次年度以降の課題及び改善点

・管理機関における課題及び改善点

対面での会議の開催が困難な状況であったことを踏まえ、教員の情報共有や事業の具体的な方策の検討をより機動的に行うことができるように、拠点校と連携校における事業の具体的な企画

- ・立案を担う小委員会を立ち上げることとしたい。また、令和3年度から実施予定である高校生の先取り履修を含め、先導的なモデルとなる取組を推進するとともに、令和2年度に構築したプラットフォームを活用し、情報発信や自走に向けての新たな連携先の開拓を積極的に進めることとしたい。

・拠点校における課題及び改善点

これまで述べてきたように、新型コロナウイルス感染症拡大により、休業期間や実施方法の見直しが求められた中、管理機関に配置したカリキュラム・アドバイザーと協働し、「グローバル課題研究」のカリキュラム開発等、明確な成果を上げている。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、海外研修等が中止となり、オンライン等を活用し代替事業を展開したが、学生が現地での経験を通して得られる学びの機会を設けられなかったことは課題である。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を注視しながら、海外研修の実施を行うとともに、引き続き探究活動のさらなる深化を進めるほか、課教員間での次年度担当への引継ぎ等、情報共有体制の強化を行う。

【担当者】

担当課	グローバル人材育成推進機構・教育政策室	T E L	076-264-5020
氏 名	山本 秀樹	F A X	076-234-4010
職 名	室員	E-mail	o-ghrd@adm.kanazawa-u.ac.jp